

## 長期戦略:テーマ 「カリキュラムの基本構造の改革」

提出日 2022年 1月 28日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	山田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	教務機構・総合企画部
-----------------------	-------------------	---------------	------------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(3)-② (旧・中期計画:IBMとの共同事業を継承) AI活用人材育成プログラムの創設	2019年度	2024年度	必要なし	不要
<b>内容</b> <p>本学は、AIとして知名度の高いWatsonを擁するIBMと教育・研究にAIを活用する包括的な共同事業を2017年9月より開始した。</p> <p>2018年度は共同事業の一環として、「文系・理系を問わず、AI・データサイエンス関連の知識を持ち、さらにそれを活用して、現実の諸問題を解決できる能力を有する人材」＝「AI活用人材」を育成するための体系的な科目群(10科目)のコンテンツ開発を進めてきた。</p> <p>2019年度からは、共通教育センターを開講部局とし、共同事業のプロジェクトリーダーである巳波弘佳・学長補佐(理工学部教授)とも綿密な連携を取りながら科目提供を開始するにあたり、担当する非常勤講師を統轄し、AI活用人材科目群の科目運営やカリキュラムをコーディネートする教員、担当スタッフを配置し、安定的な運営を実現する。</p> <p>また、2021年度をめざし、「AI活用入門」等をe-learning化して、①関学生対象②他大学や社会人向け有償提供を行うプラットフォーム構想に取り組む。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	AI活用入門定員充足率(2020年度まで) / AI活用入門履修者数(2021年度以降)	当該年度のAI活用入門の履修者数 ÷ 履修者定員 × 100 (2020年度まで) 当該年度のAI活用入門の履修者数 (2021年度以降)		
指標2	AI活用発展演習Ⅰ単位修得者数	当該年度にAI活用発展演習Ⅰの履修者の内、単位を修得した者の数(1クラス30人定員)		
指標3	AI活用発展演習Ⅱ単位修得者数	当該年度にAI活用発展演習Ⅱの履修者の内、単位を修得した者の数(1クラス30人定員)		

## 目標1&lt;指標1&gt; AI活用入門定員充足率(2020年度まで) / AI活用入門履修者数(2021年度以降)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	60%	80%	4000人	4000	4000	4000
実績	100%	95%				

## 目標2&lt;指標2&gt; AI活用発展演習Ⅰ単位修得者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	15	30	40	40	40
実績	—	3				

## 目標3&lt;指標3&gt; AI活用発展演習Ⅱ単位修得者数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	—	—	10	20	20	20
実績	—	—				

## 2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
AI活用人材育成プログラムの創設・提供	策定段階	科目提供開始 教員配置	提供科目拡充 PBL科目実施 コンテンツ見直し	すべて開講 コンテンツ見直し	すべて開講	すべて開講 コンテンツ見直し
	2022年3月末段階	科目提供開始 教員配置	提供科目拡充 PBL科目実施 コンテンツ見直し カリキュラム改編	—	—	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	すべて開講	すべて開講	すべて開講 コンテンツ見直し	すべて開講	
	2022年3月末段階	—	—	—	—	
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
AI活用人材育成プログラムのe-learning化プラットフォーム構想	策定段階	プラットフォーム構想の検討(フィージビリティ)	プラットフォーム構想の実現に向けた検討	関学生全員対象 e-learningの開始/他大学へのコンテンツ提供の開始	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス
	2022年3月末段階	フィージビリティ調査を実施	プラットフォーム構築	3科目バーチャルラーニング提供開始(学内:4月、学外:7月)	コンテンツメンテナンス バーチャルラーニング1科目追加・学内外への提供	—
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	同左/コンテンツメンテナンス	
	2022年3月末段階	—	—	—	—	

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度	2024年度	左記以降
非公開							

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	全学AI活用人材教育部会を開催し、AI活用入門におけるクラス定員を増加した。 AI活用人材育成プログラムのe-learning化プラットフォーム構想について、その提供手法や時期・システム構築・学内規則等フィージビリティ作業を行った。
2020年度	クラス定員について、AI活用入門で70人増(150人定員×3クラス)、AI活用データサイエンス実践演習I・IIで20人増(50人定員)にて開講した。春学期AI活用入門3クラス計の申込者数は、定員450人に対し1,101人であった。 日本IBMと協働し7つのテーマにて教材改修を行い、6月に完了した。 6月教務委員会にて、2021年度カリキュラム改編(3科目のe-Learning化含む)の承認を得た。
2021年度	関学生向けに3科目をバーチャルラーニングとして提供開始し、春学期の履修者数はAI活用入門で2,071名、AI活用アプリケーションデザイン入門で100名、AI活用データサイエンス入門で93名であった。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

## 5. 今後の課題及び方向性

2019年度	e-learning化プラットフォーム構想について、2021年4月より関学生向け提供が可能となるよう、授業のデジタル化やシステム構築を継続検討するとともに、他大学や社会人向け提供手法についても併せて検討する。 カリキュラム改編を行い、2021年度よりAI活用入門、AI活用アプリケーションデザイン入門、AI活用データサイエンス入門の3科目をe-Learningにて開講できるよう、教材の作成・デジタル化、プラットフォームシステムの構築・設定、TAチャットボットの構築に取り組む。 AIに関する最新のトレンドやデータを反映し、また最新のアプリケーション仕様へ対応するため、引き続きコンテンツメンテナンスを実施する必要がある。
2020年度	バーチャルラーニング3科目について、関学生向けは2021年4月に、企業・他大学向けは2021年7月に提供を開始できるよう、日本IBM社、及びプロシーズ社と協働し、具体的に取組みを進める。特に関学生向けは、2021年3月までに準備を完了させる。 2022年度以降にバーチャルラーニングとして提供する科目を検討する。 AIに関する最新のトレンドやデータを反映し、また最新のアプリケーション仕様へ対応するため、引き続きコンテンツメンテナンスを実施する必要がある。
2021年度	既存のバーチャルラーニング3科目について、提供開始後に判明した教材のエラーを修正し、必要に応じて内容のバージョンアップを行う。 また、TAチャットボットの回答能力を向上させるべく、継続的な機会学習の実施を検討する。 2022年度にバーチャルラーニングとして追加提供する科目を決定し、関学生向けは2022年4月から提供を開始できるよう、2022年3月までに準備を完了させる。 AIに関する最新のトレンドやデータを反映し、また最新のアプリケーション仕様へ対応するため、引き続きコンテンツメンテナンスを実施する必要がある。
2022年度	
2023年度	
2024年度	

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	「AI 活用人材育成科目」の授業担当者及び運営に関わる概算費用を承認します。なお、専任職員については、配置する方向で検討し、人事部にて対応します。
2019 年度	AI 活用人材育成プログラムの継続実施を認めます。 ただし、コンテンツメンテナンス費について、今後の頻度を含めた計画を定めてください。
2020 年度	AI 活用人材育成プログラムの継続実施を認めます。 学外展開も含めてフルオンラインコンテンツ化を進めてください。ただし、e-ラーニングプラットフォーム構想事業費のうち、レコメンデーション、DaaS 構築費用、プラットフォーム拡張費、および人件費の派遣職員 1 名の費用については、補助金が採択された場合のみ執行可能とします。
2021 年度	AI 活用人材育成プログラムの継続実施を認めます。 e-ラーニングプラットフォーム構想事業費について認めます。 共通教育センター副長の役職手当、任期制教員 A1 名、専任職員 1 名、派遣職員 1 名の継続を認めます。また、外部向け販売のさらなる促進に向けて、派遣職員 1 名の増員を認めます。
2022 年度	
2023 年度	

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2021 年度より、大学全学生が受講可能な e-Learning 化科目を開講し、社会のニーズに合った卒業生の輩出をめざしていく。</li> <li>・e-Learning コンテンツの企業・他大学等への提供の開始予定(2021 年 7 月)。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">継続</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI 活用人材育成プログラムの修了者輩出に向けた方策の検討</li> </ul>

## 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">継続</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃止</li> </ul>	